

シグマ研究委員会  
核融合核データ・ワーキング・グループ会合議事録

日 時 昭和 57 年 3 月 10 日 (水) 13:30 ~ 17:20  
場 所 原研本部 第 6 会議室  
出席者 神田幸則(九大), 村田 徹(NAIG)  
西村和明, 関 泰, 中島 豊, 浅見哲夫(原研)

配布資料

1. 前回会合(56.12.15)議事録
2. シグマ研究委員会の構成
3. Graphical Representation of Transmutation and Decay Chain Data, Transmutation Cross Section and Delayed Gamma Ray Emission Data (Y. Seki et al.)

議 事

1. 前回議事録確認
2. 一般報告

浅見より最近の運営委員会での討議事項, 話題等について説明があった。その中で資料 2. を用いて, シグマ研究委員会内の WG の構成について説明があった。

関氏より, INTOR 関係の情報として, INTOR workshop ではベンチマーク・テストを行うことになり, 近くベンチマーク・テストの対象を決めることになる等の説明があった。また, FNS 実験解析に関して前回の会合以後の結果についても説明があった。

3. THIDA について

関氏より資料 3. を用いて THIDA システムの概要, それに使用している核データ等について説明があり, 討論を行った。

(詳細は省略)

#### 4. 57年度計画

57年度からの当WGのグループリーダーに神田氏が選出された。また、新たなWGメンバーとして前川洋氏(原研)、小川雄一氏(プラ研)が推薦された。前川氏はすでに了承済みなので発令手続きをとること、小川氏については関氏が打診してみても了承がえられれば本年度はオブザーバーとして参加してもらうことにした。

次に、57年度の作業計画について議論を行った。INTOR, FNS実験解析、核融合炉・遮蔽定数WGのDDXの作業等との関係についても討議されその結果、57年度計画としては

FNS実験解析に必要な核データ( $^6\text{Li}$ ,  $^7\text{Li}$ , C, O, Cr, Fe, Ni)を整備して提供する

ことを主要な作業とすることにした。この作業では、実験データの収集とともに評価データの検討を行い、最良のデータセットを編集・作成し、問題点についてはJENDLの評価作業へフィードバックするようにすることにした。作業の詳細は次の会合で決めることにし、そのときまでに関係核種のJENDL-2, ENDF/B-IV, -Vのデータの全部の反応のプロット図を(できれば実験データも重ねて)浅見が用意することになった。また、従来行ってきたプロット作業も継続して行うが、57年度のなるべく早い時期にまとめることにした。

なお、次回の会合は6月4日(金)、11日(金)、25日(金)の何れかの日とすることにした。